

議 長 受付番号第3号、鈴木眞徳君の一般質問を許します。登壇願います。

11番 鈴木 議長のお許しいただきましたので、受付番号第3号、質問議員、第11番 鈴木眞徳。件名、高齢者福祉施策の見直しについて。

要旨、町では小児医療助成や高齢者に対して手厚い施策が数多く展開され、多くの町民が恩恵を受けていることと思います。そこで、28年度予算編成に当たり、お聞きいたします。

(1) 高齢者のインフルエンザワクチンの接種には1,000円の自己負担ですが、近隣市町では1,500円の自己負担をしているようです。松田町においても自己負担の増額にしても、その財源を何か別の福祉施策に充当するようなお考えありませんか。

(2) 敬老祝金が平成27年度予算で417万5,000円が計上されています。敬老会で70歳以上の方に段階的に渡されていると思いますが、元気なお年寄りがふえているのではないかと考えます。この敬老祝金を見直すお考えはありますか。以上でございます。

町 長 それでは、鈴木議員の御質問に順次お答えをさせていただきます。

高齢者福祉施策に対しましては、議員の皆様の御理解と御協力をいただき、円滑に実施できていますことを、まずもって御礼を申し上げたいというふうに思います。

松田町の高齢化率も平成28年1月31日現在で31.7%となっており、平成29年には75歳以上の高齢者の人口が65歳から74歳までの高齢者の人口を上回るというふうに推測をされております。また、いわゆる団塊の世代の高年齢化を迎え、町の高齢者健康福祉施策についても、国の「地域における医療及び介護の総合的な確保を推進するための関係法律の整備等に関する法律」に基づく介護保険法等の改正に見られますように、方向転換を考える時期に来ているというふうにも思っております。

平成27年度当初予算において、一般会計支出に占める民生費、衛生費の割合は、おのおの29.4%、6.5%で、一般会計の約3分の1を占めております。民生費には国民健康保険、介護保険などの社会保障に関する特別会計の繰出金、後期高齢者医療の負担金、衛生費には簡易水道のインフラに係る特別会計の繰

出金なども含まれておりますけども、町の財政規模は大きく変わらないまま推移した場合に、鈴木議員の御提案のとおり、従前から継続している健康福祉施策であっても、予算を見直しし、さまざまな健康福祉施策への予算配分を検討することも考えていかなければならないということだとも思っております。

それでは1つ目の御質問についてお答えをさせていただきます。ことしの冬につきましては、インフルエンザの流行が例年よりも遅かったということがあり、1月第1週から流行期に入り、2月下旬にはピークとなっております。インフルエンザにかかると重症化しやすく、特に接種する便益が大きいと考えられるために、65歳以上の高齢者は定期のインフルエンザ予防接種の対象者となっております。インフルエンザワクチンの接種を受けた高齢者は死亡の危険が5分の1に、入院の危険性が半減するというふうに期待をされているところであります。現行のワクチンの安全性は極めて高いと言われておりまして、松田町の高齢者のインフルエンザワクチン接種率はここ数年、47%前後で推移をいたしまして、昨年度は1,638人の方が接種を受けておられます。なお、今年度は平成28年1月31日現在で1,672人が接種を受けられ、接種者の人数は1,700名を上回る見込みでございます。

さて、65歳以上高齢者のインフルエンザの予防接種につきましては1,000円の自己負担をいただいているということは御承知のとおりだと思います。予防接種は全て個別接種となりまして、足柄上医師会、小田原医師会に足柄上管内1市5町で委託契約をさせていただき、各医療機関で接種することとなっております。平成26年度から松田町を除く1市4町は自己負担金を1,500円ということで値上げをされましたが、インフルエンザ予防接種の推奨啓発の観点から、松田町といたしましては自己負担額を1,000円ということで据え置いております。平成27年度からインフルエンザワクチンがこれまでの3価ワクチンから4価ワクチンということで、インフルエンザウィルスに対する免疫を得ることができるものに変更されて、近年の流行しているインフルエンザに対し、幅広く効果が期待できるようになっておりますが、その分、ワクチンの単価がさらに上昇いたしまして、医師会への委託単価が約600円値上げがありました。

このワクチンの変更に伴い、県下でも接種費用の改めにつきまして行う自治

体が多くなりました。予防接種の自己負担金も、一般に医療機関にかかったときの医療費の自己負担割合を踏襲した受益者負担ということにするという考え方もありますが、自己負担金の値上げ前後や管内他市町のインフルエンザ予防接種の接種率やその後の推移等々、あと国民健康保険におけるインフルエンザの治療に要した費用の推移などから予防効果というものを見きわめて、今後、高齢者が増加し、相対的に予防接種を受けられる方々がふえることが予測されることから、松田町における自己負担金のあり方について検討をしてみたいというふうにも考えております。

高齢者インフルエンザ予防接種の接種開始時期の前、9月ごろになりますけれども、鈴木議員からいただきました御提案につきまして、将来を見据えた総合的に勘案して自己負担金の改定につきまして研究・検討をしてみたいというふうに考えております。その結果、また方向性については改めて6月の議会で、途中経過も含めて御説明をさせていただきたいというふうに考えていますので、その節には御審議賜りますよう、よろしくお願いを申し上げます。

続きまして、2つ目の御質問についてお答えをさせていただきます。敬老祝金についての変遷ではございますが、昭和43年から本町居住の高齢者に対し、長寿を祝福し、祝金の給付を行い、高齢者の福祉に寄与することを目的として条例で規定をされているものでございます。平成27年度の予算では417万5,000円を計上し、長寿の節目となる70歳、古希150名、77歳、喜寿154名、88歳、米寿53名、99歳、白寿6名、100歳の百寿2名で、計373万円を支出させていただきました。予算額との乖離につきましては、9月15日または100歳について誕生日の前日の基準日までに転出や御逝去されたこと等々によるものでございます。

今後の敬老祝金の支出予定額等の年度推移を見ますと、団塊の世代が高齢期に入り、70歳、古希を迎えられる平成29年度からは例年よりも多数の200人を超える方々が70歳の敬老祝金の対象者となってきます。平成28年度は70歳到達者、77歳到達者は、今年度の実績を下回る人数を予定しておりますが、平成29年度からは対象者の増加に伴って、支出予定額の急激な伸びとなってまいります。

今後、高齢者の皆様が元気に過ごされて、健康寿命を延ばされる、延伸されることによっても支出予定額の増加が見込まれるところでございます。第6期介護保険事業計画策定時での人口推移計では、松田町の高齢者の人口は平成32年度をピークに減少に転じるというふうに見込んでおりますが、引き続き75歳以上の後期高齢者の人口は増加傾向をたどります。しかしながら、元気な高齢者の方々がふえ、寿命が伸びることは町にとっても、皆様にとっても大変喜ばしいこととも思います。町といたしましても、お元気な高齢者が地域で末永く暮らしていただくためにも、新たな取り組みに必要な財源の確保を視野に入れ、町民の皆様の健康寿命の延伸に取り組んでまいりたいとも考えてもおります。

今回、鈴木議員からいただきました御提案につきましては、人口の推移を総合的に勘案し、管内1市4町を初め、近隣市町の敬老祝金の支給年齢、支給額等も参考に入れながら、先ほどの質問と同じような6月の議会等々、時機を見て、皆さんにお諮りをさせていただき、政策決定として進めてまいりたいというふうに思っておりますので、御理解、御協力をお願いしたいと思います。以上でございます。

11番 鈴木 再質問させていただきます。今、前者からみんな言われたとおり、今、中国経済の低迷から原油の安いことから金利のマイナス面から、もうほとんど日本全国がこういうふうになっているときに、4年前に民主党が事業仕分けをやらせてね、松田町も新規事業ばかりもいいけど、ここで仕分けをして。なぜかという、今、お年寄りなんてが銀行は危ないということで、金庫が売り切れて金庫がないんだってね。自宅のタンス預金にするために金庫がつかれないって。そういう時代に、我々65歳以上の人間が、インフルエンザのワクチンが600円上がるのに、もう3年…町長いつも言う、商品券もそう、3年をめぐって。3年という、その3年は25年で終わっているんですよ、みんな1,000円は、1市4町は。もう全部それがもう26年度から1市4町は1,500円に上げている。松田町はずっと1,000円でいく。65歳以上の人、私は500円上げて一人も文句言わないと思う。自分の体は自分で守るのが普通だから、どこかで見切りしないと、このままずっと永久に1,000円で行っちゃうんじゃないかということで、今回出させていただきました。

というのも、私は歩いて大井町でインフルエンザ、去年、打ちました。お年寄りばかりだから一斉にインフルエンザの注射を打っている。1,000円だから向こうから喜ばれるんじゃない、嫌味を言われるの、逆に。大井町全員、看護婦さんが、「皆さん、インフルエンザ自己負担1,500円ですよ」と言ったときに、「あ、すみません、松田の人1人いました。松田1,000円です」と言うと、お年寄りだからね、嫌味を言われるのね、逆に。安いから嫌味を言われるほどつらいことはないね。松田町はお金があるから1,000円なのか、それとも、何だから1,000円なのか。あなた方が一生懸命選挙で票欲しいから1,000円を上げないのかとか、いろいろ言われるわけ。やっぱりね、言われるということは、やはりこれから広域性のことを考えなきゃいけないと、やはり1市4町と足並みをそろえて1,500円なら1,500円。もう今年、南足柄は市長の手当も下げ、みんな下げてあれしたら、インフルエンザのお金はもうここで1,700円に上げるということで、この間、中井の杉山町長とちょっとそういう話ししたら、うちも考えているんだよって、600円上がるから考えているんだよと。もうよそはもうその先を考えているんで、松田町はここで誰かが、議員の誰かが提出しないと、こういうことに対してできないんじゃないかということで、きょうは出させていただきますんで、今、町長からの答弁で6月のときに出させていただきますということなんで、もし、そういうことで皆さん、町民に怒られるかもしれない。怒られるかもしれないけど、65歳以上のお年寄りみんな元気でね、自分の体を元気でいたいので、1,000円が1,500円になっても私は文句言わないと思うんですけども、もう一度ちょっと答弁をよろしく願います。

子育て健康課長

議員の御提案により今、1,000円を1,500円にというお話ですけども、一応ですね、上郡5町と南足柄市と共同の事業としてやっていますので、今現在、上郡の中でも松田だけが単価違うよというのは医師会からも一応言われております。実際に事務をするのに一つだけ違うというのは、向こうとしては面倒だということ。ただ、うちのほうは、町としては一人でもインフルエンザにならないように安いお金で受けていただきたいと。結局予防効果があればそれだけ医療費も抑えられるし、高齢者の方もね、苦しまずに済むということで、今、事業は実施しているところなんですけども、実際に今年度、26年度に上郡の4

町が値上げしていますので、実際に1,000円から1,500円に上がった結果、どれぐらいのね、影響があったのかというのを4月、5月に確認させていただきまして、影響がないようであればとか、そこら辺は町長と相談させていただいて、値上げする、しないとか、決定させていただきたいと思います。よろしく願いします。

11番 鈴木 木 本当にな、500円上げるっていうことは、町民に対して私、大変言われると思うんですけども、今の言われたとおり、自分の体は自分でちゃんとしなきゃいけないことで、よそより安いからとか、そういうものじゃなくて、一律にしてね、1,500円、病院のほうの手続も一律1,500円ならやりいいし、ぜひ6月のときにそういうふうにしていただきたいと思います。

2つ目の敬老祝金、ちょっと敬老祝金言う前に、他町から調べてきました。南足柄市は敬老祝金100歳、5万円だけです。大井町、77歳5,000円、88歳1万円、99歳2万円、100歳3万円。中井町、80歳から89歳5,000円、90歳以上1万円。開成町、77歳5,000円、88歳1万円、99歳2万円、100歳3万円。山北町、75歳、87歳3,000円、88歳、94歳5,000円、95歳以上1万円。松田町、70歳5,000円、77歳1万円、88歳2万円、99歳3万円、100歳以上10万円。比較して、松田町が大変優遇していますね。お年寄りだからって、私が17年前に議会に来たときは70歳以上一律5,000円以上、5,000円出していました。もうそのときのあれは1,000万円超えていました。敬老祝金が1,000万超えてた。それをみんなでこのようにしようといって70歳。いきなり、私が70歳になっていただいているんなら、こういう質問はまだきょうの町長の答弁じゃないんですけども、終戦後で今は150人ですけど、来年、再来年になって、来年は200人超えるということで、再来年はもう恐らく250人ぐらいいくと思うんですね。そうすると、やはり今、ここで少し考えないと、永久にこれから人口もふえて、終戦後でみんなふえていくに、このお金がものすごくふえるんじゃないかと思って質問させていただきました。答弁でこれも6月に考えさせていただきますということで。ただ全部をやめなさいということじゃなくて、70歳みんな元気ですから、その中でもいきなりではいけないので、障害者とか、身体の不自由な人とか、生活保護いただいている人とか、そういう人はいきなり切るんじゃなくて、そ

ういう人には上げさせていただき、そして、見直してみたらどうかなということとで質問させていただきます。どうですか、それは。

福 祉 課 長 御意見、御提案ありがとうございます。経過措置的な考え方が鈴木議員の再質問の中にごさいましたので、そのことも含めて考えさせていただければと思っております。ただ、250人を70歳の到達者が超えることは全くございませんで、平成31年に241人をピークになると思っております。また細かい説明はさせていただく機会があると思っておりますので、その際に、また改めて御説明を申し上げたいと思っております。以上でございます。

1 1 番 鈴 木 あえて憎まれ役を買わさせていただきました。というのも、誰かがこれをやらないと、このままずっと行っちゃうんじゃないかということで、どこかで区切りをしなければいけない。そういう意味で今回、敬老祝金、それも出させていただきました。とにかく新規事業を一生懸命やるもいいけれども、事業の見直しじゃないんですけれども、こういうふうに今、高齢者がみんな元気なうちにこういうところを見直させていただいたほうがよろしいんじゃないかということで、出させていただきましたので、ぜひ職員と町長と相談していただきながら前向きに、上げることとか、やめさせることだから、前向きにと言ったらおかしいんですけど、そういうことを考えて、ぜひ6月にはいい返事を期待させていただいておきます。終わります。

議 長 以上で受付番号第3号、鈴木眞徳君の一般質問を終わります。

暫時休憩いたします。休憩中に昼食をとっていただきます。午後は1時ちょうどより再開いたします。 (11時39分)